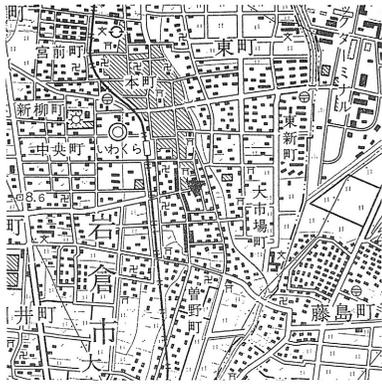


## 愛知・岩倉城遺跡



(名古屋北部)

跡の北部を東西に横切るために事前発掘調査を実施した。発掘調査では掘立柱建物・土塋・溝等を検出した。内堀と推定される幅約6m、深さ約2mの溝から、土師質皿、瀬戸・美濃系陶器、中国陶磁、木製品、竹製品等が多数出土した。木簡は

- 1 所在地 愛知県岩倉市下本町字城跡
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一月～三月
- 3 発掘機関 (財)愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 平野 清・平田睦美・松原隆治
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、古墳時代中期、室町時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
岩倉城は、織田信長の居城清須城の北北東約8kmに位置し、五条川右岸の標高約一〇mの自然堤防上に立地する。県道が岩倉城本丸

二点ともこの溝の最下層から出土した。なお城跡の下層では方墳や弥生後期の住居跡を確認した。

8 木簡の积文・内容

(1) 「×× 羆鬼急々如律令 羆」 210×22×1 051

「×」は以点もしくは水点、次は梵字で ham、その下は符籙、「急々如律令」は呪句、「羆」は四縦五横で「臨兵闘者皆陳烈在前」の九字を意味する。符籙に申でなく甲を用いていることから、病氣祓いの呪符木簡と考えられる。

(2) 「×□ 羆 □×」 (80)×23×1 019

以点の下は梵字  $\text{E}^{\text{H}}$ 、符籙「羆」の次は「屍」の可能性が大きい。(1)と同じく、病氣祓いのための呪符木簡と考えられる。

积文・内容について、奈良大学水野正好、奈良国立文化財研究所加藤優の両氏の御教示を得た。

(松原隆治)

